

## 第20回女性起業家大賞・グロース部門優秀賞

# プライベートゾーンの「自分の感覚」を ありのままに受け入れられるものづくり

株式会社りぼん

代表取締役

大原 万里亜（おおはら・まりあ）



## 生理や排泄を快適にしたい という思いが原動力

私は2013年に起業しました。きっかけは16年間勤めていた特別支援学校の教師時代の経験です。障がいを持つ子どもたちが、生理や排泄で不快な思いをしているのを見て、快適にしてあげたいと思っただけです。

石油系の素材でできたおむつや生理用品の間に布をはさむだけでも、赤くかぶれた皮膚は赤みが引き、代謝や巡りがよくなると感じました。使い捨ての既製品を使う

## 「フェムテック・フェムケア」 時代の流れが追い風に

社名の「りぼん」には、「Re・born（よみがえる・生まれ変わる）」という意味を持たせています。自分が、気持ちいいのか、不快なのか、プライベートゾーンの感覚を敏感に感じ、よみがえらせたいと思い、名付けました。

今の赤ちゃんは生まれたときから紙おむつを使用します。さらっとした感覚では、排泄しても親子とも気にならず、そのまま時間がたちます。私はこれがプライベートゾーンへの感覚を鈍らせる要因の一つではないかと思っています。

これまで女性は、プライベートゾーンについて身近な人にも話をするのではなく、学校教育でも学ぶ機会は少なく、目隠しされてきたように感じます。しかし今「フェムテック・フェムケア」という言葉が広がり始め、女性が暮らしやすい生き方を選べる時代になってきました。目隠しされた感覚から「自分が感じていること」を口に出しているのです。「生理」をネガティブに感じている人は、生理用品を自分の快適なものに変えるだけで、ポジティブに捉えることができる

かもしれません。

新しい試みとして昨年、子どもの頃から生理について遊びながら学ぶことができるように生理カルタを制作しました。現在は性教育カルタをつくっている最中です。

生理の悩みだけではなくジェンダーフリーや、差別、心の悩みなど、多種多様な悩みを解決し、感覚を目隠しすることなく、ありのままの自分を受け入れて暮らせる——。そんな製品をつくり続けていきたいと思っています。



「生理カルタ」を長崎県内全ての小中高等学校へ寄付し、保健室や授業で活用してもらっている

### 会社データ

社名 株式会社りぼん  
所在地 長崎県長崎市万屋町1-23  
電話 095-893-8776  
創業 2013年  
事業概要 「布なぶきん・布おむつ」の製造・販売

【長崎商工会議所】

HPはこちら

